



《市内の学校・幼稚園・保育施設周辺の安全対策について》

昨今、子どもを巻き込む事件事故が多発しています。このことから文部科学省、国土交通省、警察庁の3省庁は、平成24年度に実施した通学路の緊急合同点検の結果に基づく対策として、平成27年度末時点で対策が必要な箇所 744, 837箇所のうち、約9割にあたる68, 931箇所で対策を実施したとのことでした。今回、近隣の保育園から要望があり、歩道整備、路肩のカラー舗装、防護柵の設置、車両の速度抑制や狭さくの設定等保育所・通学路の安全点検と改善策を市に要望致しました。

千葉市でも毎年度当初に各学校や園から報告された通学路上の配慮を要する箇所について、現地確認をしたうえで、適切な安全対策を講じていると思いますが、特に保育園・幼稚園・認定こども園におけるお散歩・通園ルート of 安全確保の現状調査に加え、新たな視点による総点検の実施を申し入れました。

《多文化共生センター東京、多文化フリースクールちばの方と勉強会を開催しました！！ (令和元年7月17日)》

**外国にルーツをもつ子どもたちの教育ー学齢期を越えた子どもたちの進学のためにー認定 NPO 法人
多文化センター東京 [URL:http://tabunka.or.jp/](http://tabunka.or.jp/)**

多文化共生センター東京は、外国にルーツをもつ子どもたちに対し、特に高校進学支援に重点を置いて活動している認定 NPO 法人です。

現在、主に学齢を超えて来日した子どもが、毎日フリースクールに通い、日本語や数学等の教科を勉強していますが、国籍は様々であり、中でも荒川本校には中国籍の子どもが多く、新宿校ではネパール、ミャンマー、南米等の子どもが通っています。

多文化フリースクールで学ぶ理由:15歳以上で来日した子ども、もしくは母国で中学校を卒業して来日した子どもは、基本的には日本の公立中学校への入学が難しく、日本語の勉強や高校に進学したくても、現実には学ぶ場がありません。センターでは、そのような子ども達を受入れ、多文化フリースクールをはじめ様々な事業を実施しています。

運営に際しての課題:一番大きな課題は、「多文化フリースクール」に通っている多くの子どもたちが、公的な支援を受けておらず、また、学齢超過の子どもたちに対応する教育の担当部署がないため、自治体との連携が大きな課題となっています。

まとめ:

千葉市では、日本語を学ぶところが充分ではない、毎日通えるところがない、また、県内の遠方から通っている子どももいる為、交通費の学割が使えたら良い、等さまざまな意見が出ましたが、今後、増加する外国籍の学齢を越えた子ども達の居場所や、学びや交流の場を創っていくためには、自治体をはじめ関係団体と相互協力が必要であることが理解できました。

三井みわこ 通信(令和元年夏号)

- 1971年 生まれ 千葉中央区登戸在中
- 2002年 NPO 法人ハートケアユーあい（障がい者の施設）設立
- 2003年 聖徳大学大学院 児童学研究科 修士課程修了
- 2006年 NPO 法人政策塾 「一新塾」（熊谷市長と同期）卒塾
千葉県教育戦略ビジョン策定作業部会委員
- 2007年 社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、軽費老人ホーム
「ほんだくらぶ」の運営に携わる
- 2008年 ちば CO2CO2 ダイエット推進/県民会議委員
- 2010年 千葉市「新市民計画策定のための市民ワークショップ」
委員
- 2011年 千葉市議会議員初当選
- 2013年 都市建設委員副委員長
- 2015年 千葉市議会議員 2 期目当選
- 2018年 総務委員会副委員長



4月の統一地方選挙から4か月が経ちました。公的な仕事を離れて、福祉の現場に戻ってからも、市民の皆様からのご相談に応じております。現在、高齢者介護の現場では外国人介護職の受入れに関することが課題となっています。2025年、我国の介護分野における人材不足は34万人と推定され既に特養をはじめ介護の現場では慢性的な人材不足に陥っています。今後、日本人の人材を育てることも重要ですが多くの時間と労力が必要となっており、そのような現状で外国人職員に対して日常生活の支援や受入れ側の日本人職員の異文化の理解も必要です。このようなことから私自身も日本語教師の資格取得に向けて学校へ通っています。これからも高齢者・障がい者福祉、子育て支援、多文化共生、若者支援など様々な課題解決のため、千葉市に提言していきたいと思っております。

★三井みわこ後援会★

TEL&FAX：043-216-5432 三井みわこホームページ <https://www.mitsui-miwako.com/>